

## 平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年1月28日

上場取引所 大

上場会社名 東映アニメーション株式会社

コード番号 4816 URL <http://www.toei-anim.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 高橋 浩

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営企画部担当

(氏名) 大山 秀徳

TEL 03-5261-7612

四半期報告書提出予定日 平成23年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	20,148	35.8	3,404	133.9	3,632	121.1	2,163	124.0
22年3月期第3四半期	14,840	△12.1	1,455	△48.4	1,642	△45.8	965	452.4

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	155.65	—
22年3月期第3四半期	69.40	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	36,506	30,168	82.6	2,171.93
22年3月期	34,668	28,757	83.0	2,068.18

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 30,168百万円 22年3月期 28,757百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	30.00	30.00
23年3月期	—	0.00	—		
23年3月期 (予想)				50.00	50.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 無

平成22年3月期期末配当金の内訳 特別配当金10円を含んでおります。

平成23年3月期期末配当金(予想)の内訳 特別配当金30円を含んでおります。

### 3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,100	19.8	3,800	63.2	4,000	58.6	2,300	58.8	165.49

(注)当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「その他」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	23年3月期3Q	14,000,000株	22年3月期	14,000,000株
② 期末自己株式数	23年3月期3Q	109,974株	22年3月期	95,313株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	23年3月期3Q	13,897,446株	22年3月期3Q	13,912,235株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが本資料の発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、リスク及び不確実性を包含しております。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、3ページ 1.当四半期の連結業績等に関する定性的情報 (2)連結業績予想に関する定性的情報 をご覧ください。

添付資料の目次

1 . 当四半期の連結業績等に関する定性的情報.....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報.....	2
(2) 連結業績予想に関する定性的情報.....	3
2 . その他の情報.....	3
(1) 重要な子会社の異動の概要.....	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要.....	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要.....	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要.....	3
3 . 四半期連結財務諸表.....	4
(1) 四半期連結貸借対照表.....	4
(2) 四半期連結損益計算書.....	6
【第3四半期連結累計期間】	
(3) 継続企業の前提に関する注記.....	7
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記.....	7

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策の効果等を背景に企業収益や個人消費に持ち直しの動きが見られた一方、海外景気の下振れや為替レート・株価の変動による景気の下押しリスク、景気対策終了後の個人消費の落ち込みが懸念される等、引き続き厳しい状況にありました。

当社グループを取り巻く事業環境におきましても、依然として少子化やテレビ広告市場の落ち込み、DVD市場の飽和、娯楽の多様化等により厳しい状況が続いているものの、劇場用アニメーション作品の興行成績が好調に推移し、携帯端末・パソコン・テレビ・ゲーム機等への映像配信サービスやブルーレイディスク、3D立体映像等の新たなメディアの拡大の他、政府によるコンテンツ支援策が図られる等、アニメーションビジネスの拡大が期待されます。

こうしたなか、当社グループは、国内で「ワンピース」、「ハートキャッチプリキュア!」、「ドラゴンボール」シリーズ、海外で「ドラゴンボール」シリーズ、「ワンピース」、「聖闘士星矢」シリーズを主とした、テレビ・映画・ブルーレイ・DVD・携帯端末・インターネット等への映像製作・販売事業や、キャラクターライセンス等の著作権事業、キャラクター商品の開発・販売等を行う商品販売事業、キャラクターショー等のその他事業を展開いたしました。

この結果、第3四半期連結累計期間における売上高は201億48百万円（前年同期比35.8%増）、営業利益は34億4百万円（同133.9%増）、経常利益は36億32百万円（同121.1%増）、四半期純利益は21億63百万円（同124.0%増）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります（セグメント間取引金額を含みます）。

なお、当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しておりますが、報告セグメントの映像製作・販売事業及び著作権事業については、同会計基準等適用前の事業の種類別セグメントの映像製作・販売事業及び著作権事業とそれぞれ同一の区分であるため、前年同期における各セグメントの売上高とセグメント利益（営業利益）を比較し、増減比率を表示しております。また、商品販売事業及びその他事業については、同会計基準等適用前の事業の種類別セグメントの関連事業の商品販売部門及びイベント部門とそれぞれ同一の区分であるため、前年同期における各部門との売上高とセグメント利益（営業利益）を比較し、増減比率等を表示しております。

#### 映像製作・販売事業

劇場アニメ部門では、8月に「劇場版 怪談レストラン」、10月に「映画 ハートキャッチプリキュア!花の都でファッションショー...ですか!？」を公開し、「映画 ハートキャッチプリキュア!」が前作を上回る興行成績だったものの、前年同期に公開した「ワンピースフィルム ストロングワールド」が興行成績48億円を超える大ヒットであったことの反動減等もあり、全体としては前年同期と比較して減収となりました。

テレビアニメ部門では、「ワンピース」や「ドラゴンボール改」、「怪談レストラン」、「ハートキャッチプリキュア!」、「マリー&ガリー Ver.2.0」、「うちの3姉妹 おかわりばれたい」に加え、7月から「デジモン クロスウォーズ」等を放映いたしましたが、前第3四半期には「空中ブランコ」の放映があったこと等、前年同期に比べ放映本数が少なかったことから、全体としては大幅な減収となりました。

パッケージソフト部門では、8月発売の映画「ワンピースフィルム ストロングワールド」やテレビシリーズ「ワンピース」の『Log Collection』シリーズ、7月発売の「映画 プリキュアオールスターズDX2」等のブルーレイ・DVDが好調に稼動したことから、大幅な増収となりました。

海外部門では、「ドラゴンボール」シリーズのフランス向けテレビ放映権やビデオ化権、北米向けのビデオ化権等が好調に稼動したこと等から、為替の影響はあったものの、大幅な増収となりました。

その他部門では、パソコンやテレビ向けの映像配信サービスは好調に稼動したものの、モバイル向けのサービスにおけるアフィリエイト広告の規制の影響等により、全体としては大幅な減収となりました。

この結果、売上高は71億45百万円（前年同期比2.3%減）、セグメント利益は7億43百万円（同66.9%増）となりました。

#### 著作権事業

国内部門では、「ワンピース」や「ハートキャッチプリキュア！」が好調に推移し、特に「ワンピース」の人気拡大が継続し、衣類やフィギュア、パズル、生活雑貨等のキャラクター商品が幅広く好調に稼動したことから、前年同期と比較して大幅な増収となりました。

海外部門では、欧州で「ドラゴンボール」シリーズ、アジアで「ワンピース」や「聖闘士星矢」が堅調に稼動しましたが、全体としては前年同期に比べ厳しく、為替の影響もあり、大幅な減収となりました。

この結果、売上高は67億67百万円（前年同期比62.3%増）、セグメント利益は30億80百万円（同75.3%増）となりました。

#### 商品販売事業

商品販売部門では、「ワンピース」や「ハートキャッチプリキュア！」に関連したキャンペーンやタイアップ商品等が好調に稼動したことから、前年同期と比較して大幅な増収となりました。

この結果、売上高は57億70百万円（前年同期比88.1%増）、セグメント利益は3億2百万円（同343.4%増）となりました。

#### その他事業

その他事業部門では、「ワンピース」の催事イベントや「ハートキャッチプリキュア！」のキャラクターショー等を展開し、好調に稼動したことから、大幅な増収となりました。

この結果、売上高は4億94百万円（前年同期比58.3%増）、セグメント利益は1億34百万円（同27.3%増）となりました。

### (2) 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループの実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、市場動向、為替レートの変動等様々な要因により、記述されている業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

なお、平成23年3月期の業績予想につきましては、平成22年9月27日に公表いたしました業績予想を修正しております。詳細につきましては、平成23年1月25日に公表いたしました「平成23年3月期 業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

#### 「資産除去債務に関する会計基準」等の適用

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）」を適用しております。これによる当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に対する影響は軽微であります。

#### 「連結財務諸表に関する会計基準」の適用

「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）に基づき「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成21年3月24日 内閣府令第5号）の適用により、当第3四半期連結累計期間では「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

### (4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,739,864	12,296,076
受取手形及び売掛金	5,650,169	3,997,615
商品及び製品	61,485	110,329
仕掛品	794,031	784,297
原材料及び貯蔵品	40,790	68,420
その他	648,131	734,686
貸倒引当金	70,877	62,137
流動資産合計	18,863,596	17,929,287
固定資産		
有形固定資産	3,678,089	3,669,535
無形固定資産	225,103	245,346
投資その他の資産		
投資有価証券	8,157,014	8,141,623
長期預金	3,500,000	2,500,000
その他	2,122,505	2,222,078
貸倒引当金	39,738	39,738
投資その他の資産合計	13,739,781	12,823,963
固定資産合計	17,642,974	16,738,845
資産合計	36,506,570	34,668,133
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,278,745	2,928,184
未払法人税等	759,984	910,975
賞与引当金	98,475	225,039
その他	1,359,383	1,012,262
流動負債合計	5,496,589	5,076,462
固定負債		
退職給付引当金	529,489	505,218
役員退職慰労引当金	151,330	254,200
その他	160,989	74,784
固定負債合計	841,809	834,203
負債合計	6,338,398	5,910,665

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,867,575	2,867,575
資本剰余金	3,409,575	3,409,575
利益剰余金	24,787,309	23,006,920
自己株式	39,509	17,986
株主資本合計	31,024,950	29,266,084
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	450,040	250,809
為替換算調整勘定	406,737	257,806
評価・換算差額等合計	856,777	508,615
純資産合計	30,168,172	28,757,468
負債純資産合計	36,506,570	34,668,133

(2) 四半期連結損益計算書  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	14,840,781	20,148,714
売上原価	10,210,475	13,874,451
売上総利益	4,630,305	6,274,262
販売費及び一般管理費		
人件費	942,520	965,611
賞与引当金繰入額	47,954	47,578
退職給付費用	33,469	38,328
役員退職慰労引当金繰入額	18,970	16,510
貸倒引当金繰入額	23,832	25,797
その他	2,107,863	1,776,096
販売費及び一般管理費合計	3,174,610	2,869,923
営業利益	1,455,694	3,404,339
営業外収益		
受取利息	79,017	53,153
受取配当金	104,025	99,061
持分法による投資利益	28,301	108,490
その他	15,247	52,891
営業外収益合計	226,592	313,597
営業外費用		
為替差損	38,270	83,336
その他	1,251	2,449
営業外費用合計	39,521	85,785
経常利益	1,642,765	3,632,151
特別損失		
投資有価証券評価損	3,970	9,690
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	16,205
特別損失合計	3,970	25,895
税金等調整前四半期純利益	1,638,794	3,606,255
法人税、住民税及び事業税	700,528	1,235,461
法人税等調整額	27,364	207,639
法人税等合計	673,163	1,443,101
少数株主損益調整前四半期純利益	-	2,163,153
四半期純利益	965,631	2,163,153



(3) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

該当事項はありません。